



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第2回 お釈迦さまのお顔

Bl 0 | m チェック | いいね! 0 | Tweet

仏教というものを少しも知らない、生まれてこのかた一度もお寺に行ったことのない人から、
「お釈迦さまという方は、どんなお顔立ちだったのですか？ 目は大きかったですか、小さかったですか？ 鼻や口の形は？ 身長は？ 髪の色は？」
と矢継ぎ早に質問されたら、皆さんなら何と答えますか。いつかお寺で見た仏像の姿を思い出しながら、
(えーっと、お釈迦さまのお顔は……輪郭はふつらとしていて、耳は長く垂れた福耳。足のサイズが大きかったという話を聞いたことがあるから、当然、背も高かったはずね。髪はパンチパーマみたいなスタイルだけど、あれは何という名前だったかしら)
などなど、意外に戸惑ってしまうのではないのでしょうか。

なにしろ、お釈迦さまが活躍されたのは今から2,500年も昔のこと。写真はおろか、写実的な絵画の技法もなかった時代です。しかも古代インドでは、お釈迦さまご本人の姿を「像」にすることをせず、「仏足石」や「菩提樹」などをお釈迦さまの代わりに祭っていました。今日のような「仏像」が造られるようになったのは、お釈迦さまの入滅から数えて500年も経った後のことなのです。

ですから、お釈迦さまのお顔がどんなだったか、ほんとうにほんとうのことを知るの、とても難しいですね。仏典には、お釈迦さまの身体にはパッと見ただけですぐにわかる大きな特徴が32と、もう少し詳しく見るとわかる小さな特徴が80あったと書かれています。これを「三十二相(さんじゅうにそう)八十種好(はちじゅうごう)」といいます。

それによれば、お釈迦さまは扁平足で(足下安平立相(そくげあんびょうりゅうそう))、手足の指と指の間に水かきがあり(手足指縷網相(しゆそくまんもうそう))、まっすぐに立って腕を垂らすと指先が膝に届き(正立手摩膝相(しょうりゅうしゆましっそう))、ふつうのオトナより8本も多い40本の歯と(四十歯相(しじゅうしそう))、4本の白い牙を持ち(牙白相(げびやくそう))、髪が生え際まで届くほど舌が大きく(大舌相(だいぜつそう))、目は青く(真青眼相(しんしょうげんそう))、頭頂の肉が盛り上がっていて(頂髻相(ちようけいそう))、眉間には長さ30数センチの白毛があって右巻きに巻いており(白毫相(びやくごうそう))、鼻は高いけれども鼻の穴は見えなかった(鼻高不現孔)のだそうです。

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



……なんだかブツ飛び過ぎていて、これを読むとますます「ほんとうのお顔」が想像できなくなってしまいましたか？

私が「お釈迦さまの”ほんとうの”お顔はどんなだったのかしら」と思うようになったのは、生まれて初めてヒマラヤに行ったとき。今から20年ほど前のことでした。あのとき、山奥の小さな寺院で目にした仏像は、それまでずっと見慣れていた”全体にふっくらした 日本のおさま”とはまるで様子が違っていたのです。

まず、目鼻立ちがハッキリしている。顔の輪郭も驚くほどシャープで、手脚はすらりと長く、腰の位置が高く、それは異国的なお姿だったのです。そう、まるでギリシャ彫刻のように。以来、折にふれてはお釈迦さまのお顔を「ああでもない、こうでもない」と想像していた私だったのですが、その謎は、ある日思いがけない形で解けることとなります。

あれは私がインドの首都ニューデリーで暮らしていた頃のこと。少し前に買ったばかりのコンピュータの調子が思わしくないで、その日はコンピュータ会社から技師を派遣してもらうことになっていました。

技師は約束の時刻ピッタリにやって来て、それまで「インド人は時間にルーズ」という先入観を抱いていた私を驚かせたのですが、それにも増して印象的だったのは、美男美女が多いこの国でもきわだって美しい彼の顔でした。鼻は品よく高く、顎(あご)の骨格は力強く、大きな瞳は深い湖のように神秘的で、まるでどこかの王子さまを思わせるノブールでエキゾチックな雰囲気醸していたのです。

パッと見た瞬間に私は、(あれ？ この人、誰かに似ている?)と思ったのですが、それが誰だったかすぐには思い出すことができませんでした。

実は、このとき修理してもらったコンピュータは買ったときから調子が悪く、週に1度は技師を呼ばねばならない体(てい)たらかったのですが、それまで修理にやって来た技師たちは半日かけても問題を解決できず、首をかしげながら(しかし手間賃だけはしっかり徴収して)帰って行くのが関の山だったのです。

しかし今回やって来た青年は、ほかの人たちとは最初から明らかに様子が違っていました。彼はすぐさま修理にとりかかると、実に手際よく、あっという間に問題を解決してしまっただけではありませんか。

ほとんど「神業」と呼べるほどのあざやかな手腕に感動していた私に、青年は「もしもコンピュータに何かありましたら、次回は私に直接お電話ください」と言いながら名刺をよこしたのですが、そこに印刷されていたのは、なんと、お釈迦さまと同じ「シャキヤ」というお名前！ 青年を一目見た瞬間に(この人、誰かに似ている?)と思った正体は、ずっと前にヒマラヤで見た、あの仏像のお顔だったのです。

「では、あなたはお釈迦さまと同じ一族のご出身なのですか！」

私がやや興奮気味に質問すると、技師は静かにうなずきました。

「はい。私は釈迦族の血を引く者です。仏陀の時代から変わらずに、一族は今日までずっと同族の間だけで結婚を繰り返してまいりました。その意味で、私たちは今も純粋な釈迦族の血を保っていると言えるでしょう。インドには太古の昔から連綿とつづく釈迦族のコミュニティーがあって、規模は小さいながらも抜群の結束力を保っており、年に何度か一族が集結しては昔ながらの仏教儀式を行なっているのです」

このときの私の気持ちを何と表現したらいいでしょうか。頭痛の種のコンピュータをたちどころに直してくれた「神業」の技師が、あろうことか「仏」の末裔(まつえい)だったのです。まさに「神さま仏さま」と目の前の人を拝みたいような気持ちでした。

仏教は古代インドで生まれた宗教ですが、北のイスラム教と南のヒンドゥー教の両勢力から板ばさみにされてインド国内では次第に力を失ってゆき、組織的な意味でのインド仏教は、イスラム軍の攻撃によって13世紀の初頭に壊滅してしまいました。

けれど、そうした歴史の紆余曲折を経た21世紀の今もなお、お釈迦さまの末裔(まつえい)は伝統を守りながら世間のなかに溶け込んでおられる。市井(しせい)の人として静かに暮らしを営んでいらっしゃる。その事実を知ったとき、私はまるで2,500年ぶりにお釈迦さまとバツリ再会したような懐かしさと、何とも言えない心の平安を感じたのでした。

≪ [第1回 算数と仏教](#) [第3回 ありがとうの輪](#) ≫

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

好きなことをして飯を食う手順

18186人が読んでいる無料メルマガ。あなたの強みを活かしたビジネスの作り方 personal-promote.comへ進む



① ×

▲このページの先頭へ



© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう!](#)

[たいけんしてみよう!](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん!](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院News](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

起業してはいけない人の特徴

9割のビジネスは創業5年以内に廃業 成功する社長と廃業する社長の違いを公開 directsales.jpへ進む



① ×